

アクセス・フォー・オール ワーキンググループの進捗状況と今後について

2023年7月13日理事会

Japan Football Association



アクセス・フォー・オール ワーキンググループ概要

- 「JFA2005年宣言」、そして2014年の「JFAグラスルーツ宣言」に続く、より積極的な次のステップとして、2024年1月に「アクセス・フォー・オール宣言」を行うことを目標に、2023年2月の理事会でワーキング・グループ(以下、WG)の設置が承認され、これまで5回のミーティングを以下のメンバーで実施。

<ワーキンググループメンバー>

氏名	所属	役職
日比野 暢子	公益財団法人日本サッカー協会	理事
今井 純子	公益財団法人日本サッカー協会	理事
鈴木 順	公益社団法人日本プロサッカーリーグ	サステナビリティ部 社会連携グループ グループマネージャー
小野寺 隆彦	一般社団法人日本フットサルトップリーグ	専務理事
島田 真希※	公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ	
影山 雅永	公益財団法人日本サッカー協会	技術委員会 ユース育成 成ダイレクター
山岸 佐知子	公益財団法人日本サッカー協会	審判委員会 副委員長

※WEリーグの担当変更に伴い第3回より参加

これまでの議論事項

- 第1回WGでアクセス・フォー・オール(以下、AfA)に関連する課題を各団体で共有した上で、第2回からはテーマごとに各団体の取り組みや課題についてディスカッションを実施。
- AfAに関する各団体の好事例や課題認識の共有、また、世界の動向なども踏まえ、日本サッカー界として「何に」「どう取り組んでいくか」について議論を重ねている。

第1回WG
(3月16日)

AfAについて、各団体でこれまでできていること、できていないことについて共有

第2回WG
(4月14日)

ジェンダー課題について

第3回WG
(5月24日)

LGBTQ・トランスジェンダーについて
※ゲストスピーカー 千葉大学 貞升彩先生

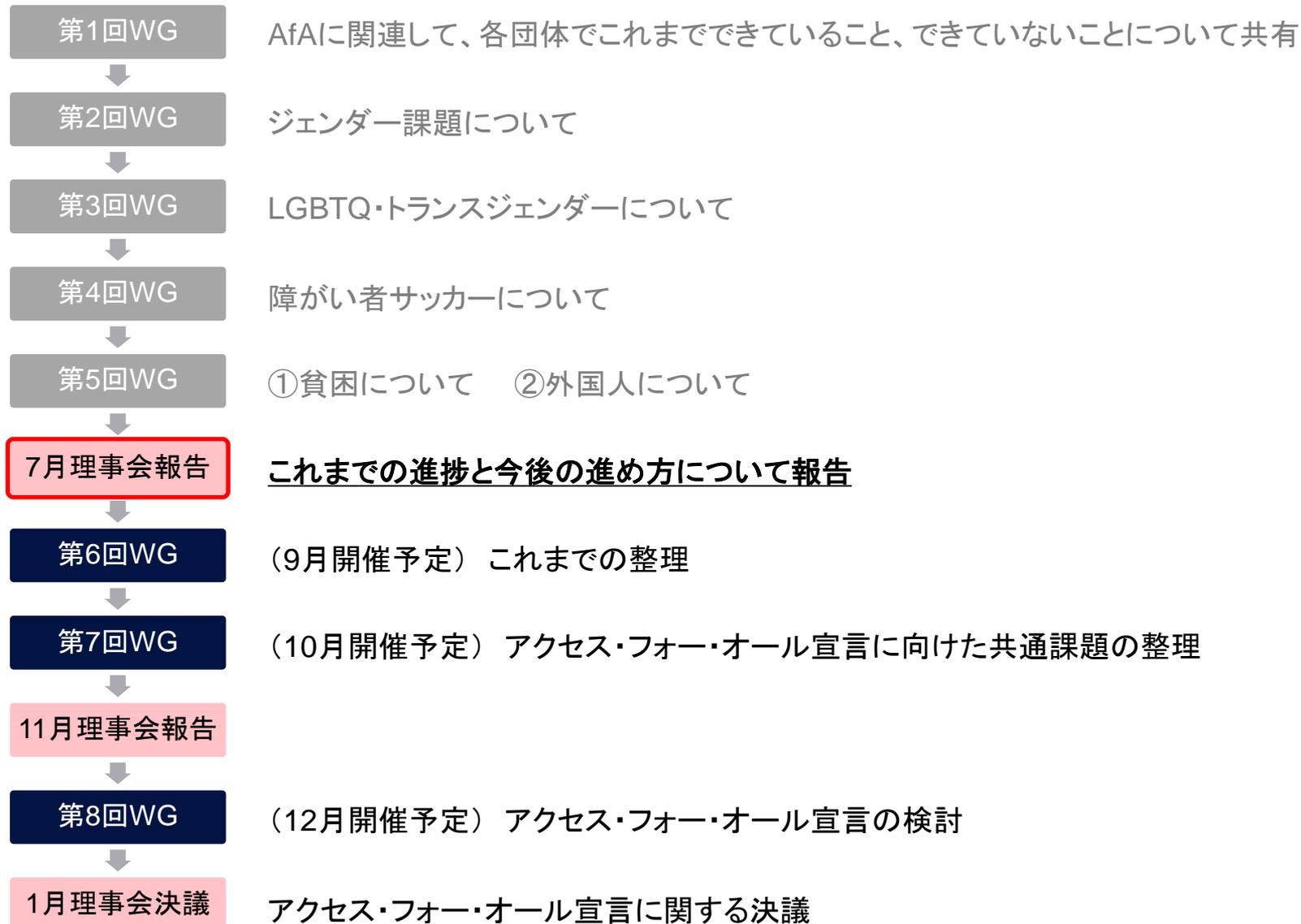
第4回WG
(6月28日)

障がい者サッカーについて

第5回
(7月12日)

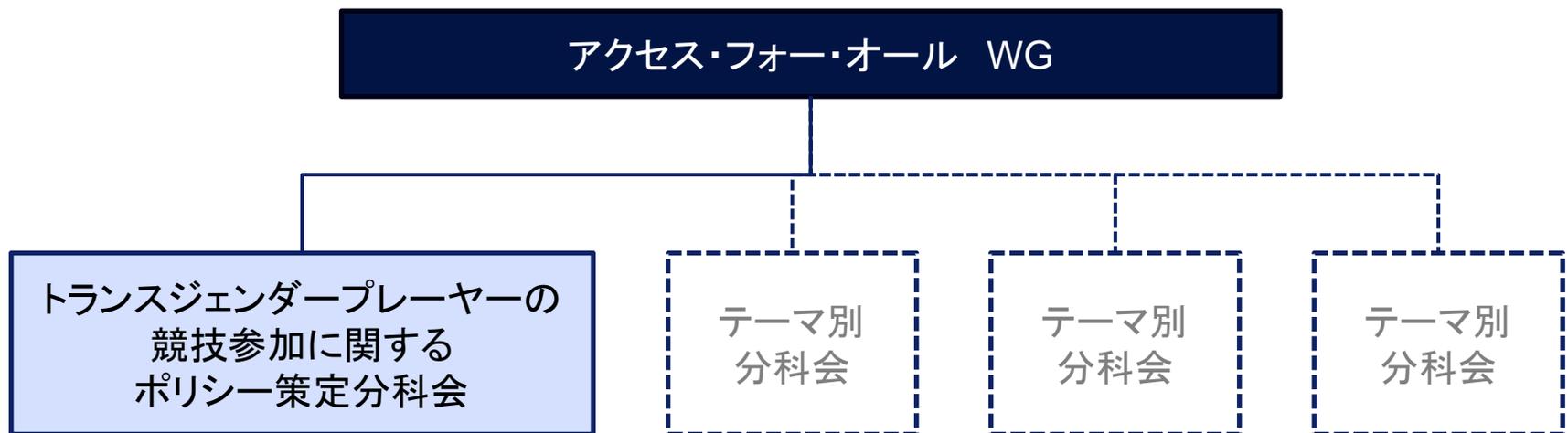
①貧困について ②外国人について
※ゲストスピーカー 日本女子大学 岩永理恵先生

今後の進め方について



テーマ別分科会の設置について

- 近年、トランスジェンダープレイヤーの競技参加について各競技団体に議論が始まっており、サッカー界においても、国際サッカー連盟（FIFA）や各国サッカー連盟/協会に議論されている。日本の社会に適合した明確な指針を策定することは急務であり、トップレベルのプレイヤーに関するポリシーを早期に策定するとともに、グラスルーツも含めた全体のポリシーを策定していく必要がある。
- そのため、WGの傘下にトランスジェンダープレイヤーの競技参加に関するポリシー策定および運用に向けた分科会を新たに設置する。



<分科会メンバー>

医学関係者、法務関係者、登録制度関係者、競技運営関係者、各団体関係者などを想定

2005年宣言、そして2014年のグラスルーツ宣言から、より積極的な次のステップとして、**2024年1月**にアクセス・フォー・オール宣言を出します。

アクセス・フォー・オール宣言 (案)

誰もが当たり前前にサッカーにアクセスできる
多様な「機会」と「選択肢」を持続的に届けることで、
豊かなスポーツ文化と共生社会の創造に寄与する

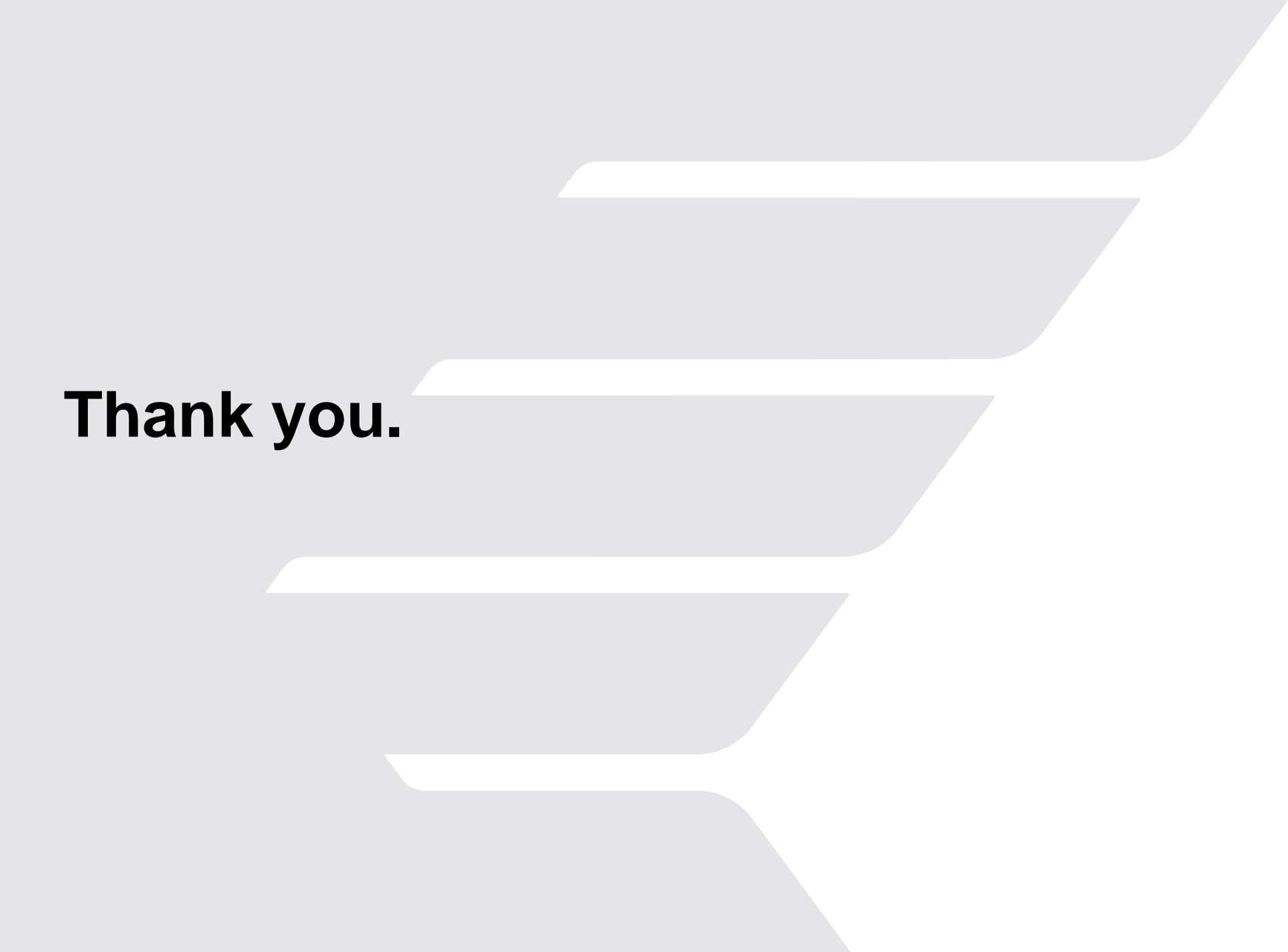
1. 日本サッカー協会は、サッカーを愛するすべての人がサッカーにアクセスし、誰もがサッカーを楽しみ挑戦できる、多様な「機会」と「選択肢」を持続的に届け、豊かなサッカー文化と共生社会の創造に寄与していきます。
2. ダイバーシティ&インクルージョンの推進において、世界のモデルとなります。

Memo 届ける(デリバリー)に込めた思い

イギリスなどの政策では、支援(サポート)よりもデリバリー(Delivery)が用いられる。

「届かないと意味がない」一人ひとりが届けられたものにとしっかりと繋がることできる。

そうしたフットボール界になれば。



Thank you.